



奈良町にぎわい通信

Vol.25

二〇一七・立夏〜小満

発行
奈良町
にぎわいの家



こいのぼり青空ペインティング



スタッフが墨で描いたこいのぼりに
みんなで色づけ。



みんなで作る
こいのぼり！



はじめての短歌
歌人の喜多隆子先生

皆さん、真剣に自作を！



↓折紙で作った
こいのぼりに
メッセージをかい
て貼ると。←



かまど体験。
炊きました！

町家講座「奈良町の登録有形文化財について」



奈良市文化財課
山口勇先生

市内の文化財を写真と共に
解説いただきました。



紹介いただいた当館の座敷の写真の美しさにびっくり！

奈良町にぎわいの家 4月のイベントから



「茶室体験」

待合から手水 → にじり口へ



はじめての盆石体験
↓



自身で点てて
いただきます。



座敷で抹茶の
おもてなし



珍しい体験にひっきりなしにお客様が。
海外の方も多数参加。



中村鳳石

奈良の風景も
多数展示。
身近な風景が
「盆石」で新たな
魅力を。



日本文化ならではの！



奈良町にぎわいの家・来館者20万人セレモニー

ゴールデンウィーク初日の4/29、20万人目のお客様をお迎えしました。20万人目となったのは、名張からお越しの三島様ご家族。仲川げん奈良市長から、記念品として、「しかまるくん」グッズや奈良の写真集を、当館の二十軒代表からは、大和茶粥セットなど奈良町の銘品と、当館のオリジナル節気葉書、二十四種を贈呈しました。当日、道ゆく方々も立ち止まり、セレモニーを共に、盛り上げて下さりありがとうございました。

当日は、館内での茶室体験と抹茶のおもてなしもあり、セレモニー後、市長、三島様には、写真集を見ながら、一服しながら歓談いただきました。2015年4月18日の開館より、3年目を迎えますが、海外も含め、沢山のお客様に来ていただいた、その積み重ねを実感しています。お客様との一期一会を大切に、町家の良さと、木の空間ならではの温かい、ほっとするような交流の場となりますように、努めて参ります。皆様、今後ともよろしくお願いします。



昨年度
(2016.4～2017.3)
一年間の活動報告
を写真と共に
まとめました。→
当館にありますので、
どうぞご覧下さい。



つし二階アート企画 本年度も注目あれ！

表屋の二階の天井の低い空間、つし二階は、なんだか落ち着く空間で、じっと座ってくつろぐお客様もよく見かけます。その独時の空間が、現代の視点でより深く新しく、味わえる企画が、「つし二階アート企画」。(協力・奈良アートプロム)。この1年半、10人のアーティストの方が(海外含む)独自の切り口で、私達が生きる「現代」とこの伝統的な空間をつなぎ、新たな視点とイメージをもたらしてくれました。



金屏風に「今」が映し出されて...

写真は、ピン前川さんの展示「ああ、わからない」から。何気なく過ごしている暮らしの風景が、前川さんによって、「え？」と新たな実景に変わる作品。おかしみや悲哀、時に「ドキッ」とするような眼差しは、私たちが日頃気づかない何物かを、見せてくれる力がありました。さて、5/25～6/13は北川幸司さんの「壁」をモチーフにした立体作品が、また今年は100年企画で、つし二階を飛び出したアートを、浅山美由紀さんが制作。町家の可能性を広げるアートに、これからも注目くださいね！

奈良町にぎわいの家 二十四節気葉書 ～立夏～



早緑の茶畑の斜面、一番茶を摘む人に立夏の光がさしています。

さみどりの斜面かぐはし一番茶

摘みゆく人に立夏のひかり



オリジナル節気短歌
喜多隆子(歌人)
節気マーク・
はがきデザイン
金田あおい(藍寧舎)

事務局だより

2017
小満号

日々の暮らしと観光化

事務局長 藤野正文

5月の連休中はカエルが鳴き始める「立夏」、旬の食べ物のタケノコも。季節は万物が次第に成長する「小満」から、穀物の種蒔きに適した「芒種」に。月明かりに水が張られた水田で、カエルの鳴き声（生き物の生の声）を聞くと、何かしらカエルに元気づけられます。

また、奈良町のあちこちの家の軒の下で、ツバメが巣作りをはじめたようです。家に来ると幸福が訪れると言われているつばめ。つばめは天敵の猫やカラスがあまり姿を見せない人通りが多い場所を好むようです。程よい具合の人通りで子ツバメが育ち、巣立っていつて欲しいものです。奈良町にぎわいの家では、4月29日に20万人目の来館者を迎えました。最近では（見た目の）海外からの来館者が半数を超える日もあります。奈良町が観光面からグローバルな存在になってきており、この流れは今後も続くものでしょう。すでに京都では起こっています。奈良町に住みたい外国人や不動産を取得する方も出てくるでしょう。奈良町に来られる海外の人を暖かく迎え入れるのが基本ですが、これまでにない日本の、奈良町の急速な国際（観光）化の

流れで奈良町がどのように変わっていくのか、予測がつくでしょうか？奈良町に住まう方のくらし、生業を守ることが重要なことには違いありませんが、何をどのようにして守らなければならないのでしょうか。何を受入れ、何を変えていかなければならないのでしょうか。奈良町の国際化とは？

★にぎわいトピックス★

4/8、直木賞作家の出久根達郎先生が来館。当館の田中館長が、奈良町を案内した後のお立ち寄りです。

出久根先生は昨年の秋に『桜奉行』幕末奈良を再生した男・川路聖謨』を出版、奈良に住む私たちには、桜を植樹した名奉行として、今も親しまれている川路聖謨。彼が残した日記から立ち上がる物語で、生き生きとした会話の中に、当時の奈良の人々の息吹が感じられる、奈良ならではの小説です。皆さん、是非、お読みください！



中央、出久根先生。サインもいただきました。『桜奉行』（図書出版 養徳社）



奥様は鶴を、ご主人はこいのぼり、おがみ体験。

コマに紙ずもうに...日本の遊びは楽しいな。

こいのぼりを折るフランスからのご家族

盆石体験は大人気！

★海外のお客様と★

奈良町にぎわい通信vol.25

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917
nigiwainoie@gmail.com
<http://naramachi-nigiwainoie.jp/>



書...逢香

奈良町にぎわいの家
オリジナル節気マーク



立夏
5/5~20



小満
5/21~6/4

ゴールデンウィークは「昔なつかし遊び」でにぎわった当館。独楽、お手玉、紙相撲、おはじき、ケン玉など、アナログの遊びは世代を超えて、楽しい会話がはずみますね。